

## 第2章 すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全

### 第1節 環境教育・学習の推進

#### 1 現状と課題

今日の環境問題は、一企業や産業に起因する従来の公害問題とは異なり、利便性を追求するライフスタイルの変化に伴う大量生産、大量消費、大量廃棄による廃棄物量の増大や地球温暖化問題など、私たち一人ひとりの生活に起因するところが大きいのが特徴です。

このような今日の環境問題を解決していくためには、私たち一人ひとりが環境問題を正しく認識し、環境にやさしい生活を実践していくことが大切であり、そのための環境教育・環境学習の重要性が増してきています。

府では環境問題に対する理解を深め、環境保全に関する意識の高揚を図るため、環境月間を中心にポスターの掲示や各種パンフレット・小冊子の配布、巡回広報、パネル展の開催等を行ったり、広報誌やテレビ、ラジオ、インターネット等を活用するなど、あらゆる機会、媒体を使って普及啓発を行っています。府民だよりでは、毎月子ども向けに「エコ&はじめの地球だいすキッズ」のコーナーを設けているほか、環境月間である6月には環境問題をテーマとした特集号を発行しています。

#### 2 環境教育・学習方針の決定

府環境基本計画では6つのリーディング・プロジェクトの一つに「環境まなびの輪創造プロジェクト」を掲げており、これまでに、府内の環境学習拠点の機器整備や環境学習事業・施設等を取りまとめた「環境学習ガイドブック」の作成、環境関係の施設・人材情報の提供など、環境教育・環境学習を積極的に推進しています。

13年度からは、地域・世代を超えた広域的な環境学習を行う場づくりを進め、地域等での環境学習の推進者を育成するため、滋賀県と連携して、両府県民が交流しながら環境について学べる「京滋地球環境カレッジ」を開講しており、14年度においても体験的な環境学習メニューをNGOと協力して提供しています。

#### 3 府民等への環境問題についての普及・啓発の推進

##### 京都エコクラブ

府では、今日の環境問題を解決していくためには「身近なことからできることを一步一步着実に進めること」が必要との認識に立ち、京都エコクラブの会員募集を9年4月から行っています。

このクラブは、「いい地球にしたいと考えている人ならだれでも登録できる」もので、会費等は無料、会員には、年2回の情報誌が送付されるほか、「京都環境フェスティバル」など府等が行うイベントなどで会員がお互いに環境保全の取組やアイデアを披露し、交流していただく機会が設けられるものです。会員数は約14,000人に達しており、府では今後も多くの人々が会員に加わり、環境保全の輪がより広がっていくよう期待しています。

##### フォーラム・イベント等

府では、環境月間(6月)・地球温暖化防止月間(12月)等の強調月間をとらえ、重点的にフォーラム・イベント等の啓発活動を展開しています。

##### 【環境フェスティバル】

府では、2年度以降、毎年、京都環境フェスティバルを開催しています。

13年度は「人と自然が共生する循環型社会～DO YOU KYOTO?(あなたは環境にやさしい取組を

表3-3 環境月間行事の概要(14年度)

行 事 名	実施機関	行 事 内 容	備 考
街頭キャンペーン	府・各市町村	各保健所を中心に市町村との連携の下、「環境月間」・「環境の日」及び「ごみ減量化・リサイクル推進週間」の啓発キャンペーンを主要駅前等の街頭で実施。	
府環境トップランナー表彰	府	環境配慮への取組を行い、社会に多大な影響を与えている事業者・団体等を表彰し、「環境先進地・京都」を目指す意識の高揚を図る。	4団体・企業
府環境保全功労者表彰	府	環境保全に関し特に顕著な功績のあった個人又は団体を表彰し、もって環境保全の推進とその意識の高揚を図る。	12個人 14団体
京の環境を考える作品コンクール	府	府内の小・中学生を対象に、環境問題により一層理解を深めるための絵画及び標語の募集。	応募数 絵画276点 標語276点
丹後あじわいの郷「風と自然と農業」親子体験教室	丹後あじわいの郷 弥栄町商工会	自然・環境・農業体験学習 (メダカ、水生昆虫等の観察、野菜の種まき体験、星空観察、風力発電所見学、海浜植物観察など)	28人
ホテル探訪「京北の里」	府、京北町、 (財)京都ゼミ ナルハウス	自然豊かな京北の里を訪れ、私たちの生活と深い関わりを持つ「ホテル」の生態に触れることで、ホテルの飛び交う美しい自然環境づくりを考える。	
楽しい天文教室	府、(財)京都府少年教育振興会	るり溪の自然の中で、日常生活や学校では体験することの少ない天体望遠鏡による天体観望等を通して、星座や惑星、銀河・星雲等について初歩から学びながら宇宙への夢を広げ、大自然の神秘にふれる場とする。また、仲間との共同生活や自然体験を通して、自発性、協調性、責任感、忍耐力を培うとともに、自然の厳しさや環境に対する豊かな感性を養う。	36人
自然と伝統工芸の教室	府、(財)京都府少年教育振興会	自然の中で、人間がどのように自然や資源を活用し、創意工夫しながら生活文化を発展させてきたかを学びながら、京都の伝統工芸の手作りに親子等で取り組み、自然環境や日本の伝統文化への理解を深める。	37人
ネイチャーイン南山城	府、(財)京都府少年教育振興会	自然の中での遊びや野外活動、仲間との共同生活を通じて自然の恵みや自然環境を大切に育てる。	60人
広報宣伝	府	テレビ番組「府政あらかると」、ラジオ番組「京都府情報BOX」・スポット放送、新聞折り込み等による「府民だより」。	KBS京都 エフエム京都
「畜産環境保全月間」啓発活動	府	畜産経営に起因する環境問題を未然に防ぐため、畜産環境保全の啓発を実施。 また、家畜排せつ物のリサイクルを図るため、「家畜排せつ物法」の周知を図る。	
浄水場周辺環境美化運動	宇治浄水場 木津浄水場 乙訓浄水場	自然環境の保全を意識した事業活動の推進を目指した環境管理活動の一環として、浄水場内及び周辺の清掃活動を実施。	
宇治浄水場一般公開	宇治浄水場	府営水道への理解を深めてもらうとともに、環境保全への取組を紹介するため一般公開する。	

していますか)~」を、14年度は「守ろう地球！一人ひとりの思いやり。~第3回世界水フォーラムに向けて~」をテーマに開催し、参加型・手作り型の催しとしてファミリー層を中心に多くの府民の方(13年度約26,000人、14年度約28,000人)が訪れました。

12年度から会場内で実施している「ローカル・デポジット」は来場者に好評を得ており、13年度から府本庁舎内で実施している缶飲料のデポジット制に活かされています。

13年度の新たな試みとして開催した、NGOの主体的な企画・運営による「エコワークショップ」では、家庭の生ごみ問題から地域の環境問題、地球環境問題までの幅広いテーマについて、参画のNGOと来場者の活発な意見交換が行われました。このエコワークショップは14年度も引き続き行われ、「第3回世界水フォーラム」にちなみ「水」に関する講演やワークショップで来場者との交流も図られました。

## 講座・研修会等の実施

13年度は「京都府環境トップランナー表彰」を受けた企業や団体の先進的な活動や取組を広く府民に紹介するため「<sup>きょう</sup>京と地球の府民環境講座」を新たに開催し、14年度も引き続き「第3回世界水フォーラム」関連事業として「水」をテーマに同府民環境講座を開催しました。

また、消費生活課及び消費生活科学センターでは、日常の暮らしの中での環境に配慮した行動を考えてもらうための講座、消費者団体等が企画から参画した講演会・シンポジウムや研修会などを内容とした「京都消費者フォーラム」などを開催しています。

表3 - 4 講座・研修会

催 事 名	日 時	内 容
環境にやさしいライフスタイル講座	14年11月	環境にやさしいライフスタイルの一層の促進を図るための講座を開催する。
京と地球の府民環境講座	14年 7月	「第3回世界水フォーラム」関連事業として開催。 講演 テーマ「水を大切に作る心」 講師：高井 和大 氏（貴船神社宮司） 講演 テーマ「『第3回世界水フォーラム』と私たち」 講師：下田 元美 氏 (第3回世界水フォーラム推進京都実行委員会事務局長)
京都消費者フォーラム	15年 1月	地球にやさしい環境づくり、ものを大切にする心、省資源・省エネルギー等、府民の安全で安心・健康で豊かな暮らしについて、確かな情報を提供し、啓発していくことを目的に実施。府民に消費生活問題について理解を呼びかける。

## 自然とのふれあい

府では、2年に設置した「緑と文化の基金」を活用し、府民公募等により選定した「京都の自然200選」選定地等での自然観察会を実施するなど、自然に直接ふれあうことで、自然のすばらしさや大切さを感じとってもらえるよう、様々な事業に取り組んでいます。

## 4 環境教育・学習機会の提供

### 府が進める広域的な環境学習施策

#### (1) 京滋地球環境カレッジ

13年度から滋賀県と共同で、環境保全の分野で社会貢献活動を行いたいと思っている人等を対象に、地域や家庭において環境との関わりを考え、自ら行動する人づくりを進めながら、環境を学ぶことの大切さを広げていく体験的な環境学習講座を開催しています。

講座は府と滋賀県で交互に開催し、学習プログラムについては環境NGOと連携し、地球温暖化問題や自然体験など毎回テーマを変えて実施しており、「環境」への取組を通じた両府県民の地域や年齢を超えた交流、ネットワークづくりが期待されています。

#### (2) 地球デザインスクール

府北部地域の広域公園である丹後リゾート公園（仮称）については、自然との共生等をテーマに9年度から一部整備に着手しているところです。府では公園のハード施設整備に先行したソフト面の取組として「地球デザインスクール」を進めています。これは、公園予定地において、学生や社会人などが自然との共生を学び、地域の資源を活かして創作活動を行うもので、プログラムなどについても広くアイデア、提案を募集し、「手作り・参加型」の取組を進めています。

#### (3) 広域連携によるフィールド・ミュージアム等

複数の市町村が連携し、広い地域全体（フィールド）を自然・歴史・文化に溢れた博物館（ミュージアム）としてとらえ、多様な自然体験・環境学習の機会を整備・演出する取組が進めら

表3 - 5 京滋地球環境カレッジ講座内容（14年度）

	日時	会場	内 容
1	14. 6. 8～ 9	滋賀県 草津市	「環境の地図を拡げよう！」 ～UNEP国連環境計画と琵琶湖を訪ねて～
2	14. 7.14	京都府 綾部市	「川との対話を楽しもう！」 ～由良川を訪ねて～
3	14. 8.10	滋賀県 大津市	「ゴミダイエットは出来るのか！？」 ～街の生活のゆくえを訪ねて～
4	14. 9.21	京都府 木津町	「21世紀わたしの暮らし方宣言」 ～見つめよう！ライフスタイル～
5	14.10.27	滋賀県 近江町	「自然と人間の生活は・・・」 ～山とダムを訪ねて～
6	14.11. 9～10	京都府 京都市	「広げよう！環境まちづくりの輪」 ～つなげよう！人と活動を～

れています。

府南部の木津川上流地域（加茂町、笠置町、和束町、南山城村）では、自然・歴史等豊富な地域資源を自然の姿のままに青空博物館として展示し、地域交流人口の拡大や産業・文化の振興を図る木津川フィールド・ミュージアム事業を、また、乙訓・八幡地域（向日市、長岡京市、大山崎町、八幡市）では、桂川、宇治川、木津川の三川が合流する日本でも大変珍しいこの地域を「三川合流ドラマティックフィールド」と名付けて、多様な魅力ある地域資源を情報発信するなどの事業展開を、更に、山城地域の東部（城陽市、井手町、山城町、木津町）では、山際を貫く道を「山背古道」と名付けて再生し、埋もれた魅力の再発見と地域の人々による「まちづくり」の取組を地元のボランティア組織と連携しながら進めています。

#### 子供を中心とした環境学習等の取組

##### (1) 体験的環境学習推進事業

環境省の体験的環境学習推進事業を活用して、13年度には府の学習拠点である地球デザインスクール及び南山城少年自然の家で子供たちを対象としたモデルプログラム事業を実施するとともに、環境学習交流事業として「環境まなびの交流会」を開催しました。また、学習拠点における連携方策等についての検討も行いました。

##### (2) エコスクールinきょうと等

府では、（財）地球環境産業技術研究機構や市町村、京都新聞社と連携し、夏休みの期間、小・中学生を対象に地球環境、自然、廃棄物等多彩な環境問題について体験・学習できる「エコスクールinきょうと」に10年度から取り組んでいます。

14年度は、府内5ヶ所で様々なプログラムを実施しました。

##### (3) 全国星空継続観察

環境省では、昭和63年度から星空観察という身近な方法により、大気環境保全に関する意識を高めることを目的に全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）を夏期と冬期に実施していますが、府では学校や市町村、インターネット等を通じて広く募集し、13年度は、25団体延べ748名の参加を得ています。

##### (4) 身近な川の生物調査

環境省では、昭和59年度から住民参加による「水生生物による調査」を各地で実施するよう呼びかけていますが、府では環境教育の一環として府内の中・高校の協力も得ながら参加者を広く募集し、調査を進めています（「身近な川の生物調査」）。13年度は、小学生約450人を含む1,200人の参加を得ています。

表3 - 6 「エコスクール in きょうと」開催状況

教室名	日時	会場	内容	参加者数
エコスクールinまいづる	14.7.25	舞鶴市中央公民館	「昆虫採集とお話」 「地球環境と私たちの暮らし」	45人
エコスクールin福知山 (その1)	14.7.26	福知山市民会館 ほか	「ソーラーカー、ソーラーボートを走らせよう」	24人
エコスクールinやわた	14.7.30	八幡市立生涯学習 センター	「地球環境と私たちの暮らし」(地球温暖化実験) ・地球温暖化についてのビデオとお話	15人
青少年地球環境科学教室 エコスクールin京都	14.8.2	府保健環境研究所	「身近な水環境を考える」 (第3回世界水フォーラム推進京都実行委員会協賛) ・水の汚れを測ってみよう ・ためしてみよう!水をきれいにするしくみ ・雨水の秘密	39人
エコスクールin福知山 (その2)	14.8.23	福知山市民会館 (野外)	「里地・里山の生き物を探そう」	32人
エコスクールin木津 「RITE1日研究員」	14.8.28	R I T E	「地球環境と私たちの暮らし」 ・地球温暖化に関する実験をしてみよう ・二酸化炭素ってどんなもの (二酸化炭素は閉じ込められるか?) ・DNAを見てみよう ほか	21人

表3 - 7 「全国星空継続観察」参加団体

	10年度		11年度		12年度		13年度	
	参加団体	延べ観察 参加人数	参加団体	延べ観察 参加人数	参加団体	延べ観察 参加人数	参加団体	延べ観察 参加人数
夏 期	13	316	17	566	17	666	16	632
冬 期	13	178	12	172	7	87	9	116
合 計	26	494	29	738	24	753	25	748

京都市窓口分含む

表3 - 8 「身近な川の生物調査」参加団体

	参加団体数(人数)			
	10年度	11年度	12年度	13年度
小 学 校	14(301人)	16(596人)	14(554人)	12( 455人)
中 学 校	6( 80人)	4( 61人)	4(123人)	2( 87人)
高 校	6( 89人)	6(235人)	3( 96人)	8( 301人)
一般参加	4( 13人)	0( 0人)	6( 19人)	8( 366人)
合 計	30(583人)	26(892人)	27(792人)	30(1,209人)

(5) その他

府内2ヶ所の少年自然の家(南山城、るり溪)では、小・中学生や保護者を対象とした自然体験や、指導者等を対象にした研修会「森と小川の教室」を社会教育の一環として進めているところだ。

また、府では、毎年、府内の小・中学生を対象に、環境問題により一層理解を深めてもらうため、絵画及び標語について「京の環境を考える作品コンクール」を実施しています。

その他、環境省が呼びかけ、全国で子供の自主的な環境保全活動の輪を広げる「子どもエコクラブ」については、13年度府内では、18クラブ、239名の子供が加入しており、子供の創意・意欲を活かした地域における環境保全の活動が展開されています。

表3 - 9 「京の環境を考える作品コンクール」(13年度)

( 絵画の部 )				( 標語の部 )			
	氏名	学校名	学年	氏名	学校名	学年	作 品
京 都 府 知 事 賞	岩 本 篤 人	京都市立 楽只小学校	3	井ノ口 真子	京都市立 伏見板橋小学校	2	すてないで じ分のゴミと じ分の心
京都市教育委員会 教 育 長 賞	中 畑 大 勢	井手町立 井手小学校	1	丁ヶ阪 奈月	長岡京市立 長岡第四小学校	5	ごみだしは ルールをまもっ て ぶんべつだ
京都市教育委員会 教 育 長 賞	松 吉 恵 里 花	京都市立 朱雀第八小学校	4	大 西 佑 実	京都市立 第三錦林小学校	6	この気持ち この環境 未来 のあなたに とどけたい

図3 - 5 京の環境を考える作品コンクール(絵画の部)受賞作品(13年度)



京 都 府 知 事 賞  
(京都市立楽只小学校3年 岩本篤人)



京都市教育委員会教育長賞  
(井手町立井手小学校1年 中畑大勢)



京都市教育委員会教育長賞  
(京都市立朱雀第八小学校4年 松吉恵里花)

## 5 学校等における環境教育・学習の推進

本府では、「学校教育指導の重点」に環境教育の項を設け、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階を踏まえた組織的・計画的な取組を推進するとともに教職員研修の充実を図っています。

6～8年度に指定した環境教育推進校「ふるさとアメニティ・スクール」では、地域に根ざした体験的な学習を通して組織的な環境教育の推進を図りました。この研究成果の普及を図り、9～12年度は環境教育ブロック「環境を守り育てる協力校」を指定し、特に小・中学校の系統性に留意しつつ、地域の人材や資源を活用した総合的な環境教育の推進を図りました。14年度は、第3回世界水フォーラムの開催を契機として、環境教育推進校「京のエコスクール」を小中高各2校指定しました。指定校においては、学校と家庭、地域社会とが連携を図りながら、地域の水環境について実践的な学習を

進め、その成果として「京の水マップ」を作成するとともに、自らが環境目標を定め、それに向かって取り組む等の環境保全や、よりよい環境を創造する「エコスクール活動」を推進することにより、主体的に行動する実践的態度と能力等の育成に努めています。

また、12年度からは、府保健環境研究所と連携し、学校ミニビオトープ協力校に小・中学校計7校を指定し、環境を保全し自然との共生を図る取組を始めているところです。

更に、2年度から小学生向けの環境教育の副読本として「京都の自然発見」を、また13年度からはこれを大幅に改定した「環境まなぶつく」を作成し、府内の小学5年生全員に配布しています。11年には学齢児未満の幼児向けに紙芝居（うみ・もり・そらとのおやくそく）を作成し、府内の全ての幼稚園や保育所に配布しました。

高校教育においては、府立木津高校に「環境コース」を設置しているほか、環境教育を授業に取り入れる方法や学校単位での推進組織の具体例を示す中で、各学校で個性ある実践活動が進んでいます。11年度には、府立北桑田高校が地球環境保全功労者大臣表彰を受賞しました。

こうした取組については、9年度及び11年度に作成した指導資料「京と地球の環境教育」や府教委広報等を通して、府内の学校や府民へ広く普及に努めています。

表3 - 10 学校等における環境教育・子供を対象とした環境学習の取組

事業名	事業の概要
環境教育ブロック「環境を守り育てる協力校」の指定	(概要) 学校の教育活動全体を通じて、組織的・計画的な環境教育の取組を推進し、環境に配慮した生活や行動ができる児童生徒の育成を図る。 (内容) 11、12年度 府内2ブロック8校を指定。 (園部町、伊根町各ブロック中学校1校とその校区の小学校)
「京と地球の環境教育 - 事例編 -」の作成	9・10年度環境ブロック「環境を守り育てる協力校」として指定した府内3ブロックの小・中学校計13校における実践成果を環境教育指導資料事例編として、冊子にまとめ、全小・中学校に配布した。
「環境まなぶつく」の作成	身の回りの自然や生活を通して環境保護の大切さを学習する教育副読本として府内の小学5年生全員に配布している。
森と小川の教室推進事業	少年自然の家において、小・中学生や保護者を対象にした自然体験や指導者等を対象にした研修会を行っている。 南山城少年自然の家「自然と伝統工芸の教室」等3事業 るり溪少年自然の家「るり溪冒険隊」等4事業

## 第2節 自主的な環境保全・創造活動の促進、推進

### 1 現状と課題

企業・事業所における「環境保全への配慮」は、地球環境問題の高まりや循環型社会構築に向けた取組が定着し、国際的な商取引上も環境配慮への姿勢が問われてきていること、消費者・需要者にも「環境」を商品選択の重要な要素としてとらえていこうという動きが拡大しつつあること、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法等への対応などから、企業の社会的責任の自覚という動機に加え、「環境」を競争力強化の重要な柱ととらえ、府内においてもISO14001の認証取得や環境報告書、環境会計の公表、グリーン購入の取組など環境経営を指向する企業・事業所等が増えてきており、環境の産業化とともに産業の環境化への適切な対応が重要となってきています。

### 2 環境に配慮した事業活動の促進

#### 環境管理の推進

「環境管理」とは、企業等が法令の規制を遵守するにとどまらず、自主的・積極的に環境保全のための行動を行うことを指しており、府環境を守り育てる条例においても、環境管理の推進を位置づけ、一定規模以上の事業者には率先行動を期待する規定を設けています。また、事業所内

での環境管理の推進役としての「環境管理総括者」の選任を求めており、14年12月末現在で81名（京都市含む）選任されています。

また、府中小企業総合センターでは、先進的な事業所の見学会や環境講演会等の事業を実施しているほか、ホームページに「環境相談」のコーナーを設けるなど必要な情報の提供に努めています。

#### 公害防止組織

様々な事業活動に伴う公害の発生を未然に防止するためには、発生源に対する規制や設備改善とともに、企業内における諸施設の維持管理、自主監視等が不可欠です。

この趣旨から、46年に「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」が制定され、企業内に公害防止管理者等を選任し、公害防止体制の整備を図らなければならないこととなりました。また、府環境を守り育てる条例においても、特定の事業者に府独自の公害防止管理者の選任を義務付け、講習会を実施するなど更に徹底を図っています。

#### 京都府環境トップランナー表彰、エコ京都21制度

13年度に、地球温暖化防止や循環型社会の形成など、環境の保全や創造に向けた先駆的・先進的な取組を行い、府民の環境配慮行動に多大な影響を与えた事業者及び団体を表彰することによって、「環境先進地・京都」を目指す意識の高揚を図ることを目的に「京都府環境トップランナー表彰」制度を創設しました。また、環境に配慮した事業所等の拡大を図るため、二酸化炭素の削減や廃棄物の排出削減に積極的に取り組んでいる事業所や、創意あふれる環境配慮活動を推進している学校、地域、商店街等を認定・登録する「エコ京都21（京都・環境を守り育てる事業所等）」制度を新たに創設し、14年度までで93事業所等が認定・登録を受けています。

また、事業所における自主的な環境保全活動を支援するため、府中小企業総合センターでは環境保全技術に係る講演会等を通じた先進的な取組事例等の紹介やインターネット等を活用し、事業所への相談に応じ、必要なサポートが行えるよう努めています。

表3 - 11 府環境トップランナー表彰団体・事業者（14年度）

事業者（団体）名	市町村名	事 績
大江町商工会女性部	大 江 町	ペットボトルを再利用した風車の製品化など、地域における多様で創意あふれる環境配慮活動を通じて、環境保全意識の高揚に貢献
(社)京都工業会	京 都 市	K E S ・環境マネジメントシステム・スタンダードの策定・普及など、府内事業者の環境配慮取組の推進を通じて、環境保全意識の高揚に貢献
舞鶴ロータリークラブ	舞 鶴 市	舞鶴の自然を活かしたエコスクールの開催など、地域における環境教育の実践を通じて、環境保全意識の高揚に貢献
松下電器産業(株)半導体社	長 岡 京 市	自らリサイクル技術を開発して、ゼロエミッションを達成するとともに、地域の事業者の環境配慮活動に協力するなど、環境保全意識の高揚に貢献

#### 国際環境規格 I S O 14001 の認証取得への支援

事業者が、環境に関する目的・目標などを自ら設定し、その達成に向けて取り組むことを環境マネジメント、そのための仕組みを環境マネジメントシステムと言いますが、環境マネジメントシステムについては、国際環境規格 I S O 14001 が確立されており、認証登録をしている事業所数が全国的に増加しています。

府内においても I S O 14001 を取得する事業所が急速に増えているほか、大学や自治体での取得や取得に向けた動きが増えてきており、14年11月までで263件の取得件数となっています。府では、中小企業を対象に I S O 14001 認証取得の支援事業を重点的に展開しており、府中小企業



総合センターでは認証取得に係る講習会等を実施しています。

また、京のアジェンダ21フォーラムが経費や体制面からISO14001の認証取得が困難な中小企業向けに策定した「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」は、府域を超えた広がりや学校での取得等、業種・業態を超えた広がりを見せており、14年12月末現在で184の企業等が認証登録を受けています。

### 3 民間団体等の自発的な活動の促進

#### 事業所等の取組

国際環境規格ISO14001の積極的な認証取得に加え、企業が自らの環境方針を明確にし、事業活動に伴って発生する環境に対する影響の程度やその影響を削減するための自主的な取組・成果をとりまとめて「環境報告書」という形で公表するケースや、事業活動における環境保全に関するコスト（投資額及び費用額）とその効果を可能な限り定量的（金額又は物量ベース）に把握し「環境会計」として公表するケースが増えてきており、環境省の「環境にやさしい企業行動調査」によると、13年度は579の企業が環境報告書を作成し公表しています。

なお、環境省では、13年2月に「環境報告書ガイドライン（2000年度版）」を、14年3月に「環境会計ガイドライン2002年版」を作成し公表しています。

また、製造業にとどまらず、流通・サービス業等を含む幅広い業種で「環境」をキーワードにした取組が活発化してきています。

宇治市の開商店街<sup>ひらき</sup>では、廃油と割引券の交換やエコ講習会の取組を開始しており、回収した油は業者が精製し、地域のごみ収集車用の燃料として利用されています。舞鶴市の平野屋商店街では、エコステーションに空き缶・ペットボトル回収機を設置し、ラッキーチケットとの交換を行うなど、リサイクルやごみ減量化を商店街の活性化につなげようとする意欲ある取組が展開されています。このほか、上京小売酒販組合では、一升びんや五合びんのリサイクルを進めるため、独自のデポジット制度に取り組んでいます。

そのほか京都百貨店協会（京都市内6店が加盟）では、2010年度のごみ排出量を1997年度と比べ約20%削減する自主目標を設定し、ごみ減量化を進めています。

府では、各工場における環境保全施設等の設置に必要な資金の貸し付けのほか、伏見区の大手筋商店街のソーラー発電アーケード整備（21世紀型商業基盤施設整備事業）や、宇治市の宇治橋通商店街と開商店街の「人にやさしいエコストリート宇治ふれあい商店街事業」（商店街等活性化先進事業）への補助を行ってきたところです。

#### 経済団体等の取組

個別の企業・事業所における取組に加え、経済団体でも積極的な展開が見られます。

（社）京都工業会では、環境関連事業として定期的に「京都環境管理研究会」や「環境マネジメントシステム構築セミナー」等を開催、省資源・省エネルギー見学会やリサイクル推進活動の研究等環境保全のための関連事業を推進しています。

京都商工会議所等では、観光都市京都ならではの取組として、12年から環境問題や交通問題改善に向け、小型電気自動車を多人数で利用する実証実験「京都パブリックカーシステム」が実施されています。

（社）京都経済同友会では、国際問題研究委員会において、地球温暖化、酸性雨、砂漠化等の地球環境問題に関する講演会や研究会が行われているとともに、CO<sub>2</sub>削減や都市の温暖化防止等の環境保全面への効果にも注目して「校庭芝生化プロジェクト」の取組が進められています。

京都中小企業家同友会に加盟する府内の中小企業を中心に、11年4月から「環境問題勉強会」をスタートしています。この勉強会では4つの分科会に分かれ、省エネ、自然エネルギー利用、リサイクル、産業廃棄物の削減、二酸化炭素の排出削減などの研究が行われています。

また、11年6月、関西圏域における行政・経済界の広域的な連携を進めるため、「関西広域連携協議会」(代表理事：新宮康男)が設立され、6つの広域連携課題の一つとして「環境問題への対応」を掲げました。軽装と適正冷房を率先実行する「関西夏のエコスタイル・キャンペーン」やグリーン購入運動の展開、環境に配慮した車社会を実現するためのエコモビリティへの取組、廃棄物の減量化・リサイクルなど、「環境共生圏・関西」の実現に向けた様々な取組が行われており、府も積極的に参画しています。

#### 府民、環境NPO等の自発的な活動促進の支援

府民一人ひとりの日常生活に起因する都市・生活型公害の顕在化や、より快適な環境の創造を求めるニーズ等の高まりに伴って、地域における足元からの環境保全活動への取組を推進することが求められており、府では「緑と文化の基金」を活用した、ふるさとの自然環境と歴史的風土保全活動助成事業など民間活動団体等の草の根レベルの環境保全活動に対する助成を行っています。

また、地域や家庭で環境保全活動に自主的に取り組む府民等の集まりである京都エコクラブを通して、情報提供や交流事業などにより、府民一人ひとりの自主的な環境保全活動に対する支援等を行うとともに、長期にわたり環境保全に顕著な功績があった方々を環境保全功労者として表彰しています。

表3-12 府環境保全功労者表彰団体・氏名(13年度)

区分	氏名・団体名	住所・所在地	表彰理由
個人	村松光男	京都市左京区	河川や地域の美化清掃活動や不法投棄パトロールなどを積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	中西宇一郎	京都市東山区	河川の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	田中政夫	京都市東山区	河川の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	瀬川一郎	京都市東山区	河川の美化清掃活動や河川パトロールなどを積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	江口征男	京都市山科区	河川の美化清掃や手話を活かした障害者への河川美化啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	山本英雄	京都市西京区	地域の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	八木清司	亀岡市	鳥獣保護員として、鳥獣保護区の管理や狩猟取締を実施するなど、自然環境保全に貢献している。
	小倉喜蔵	宇治市	鳥獣保護員として、鳥獣保護区の管理や狩猟取締を実施するなど、自然環境保全に貢献している。
	市来学	京都市左京区	自然公園指導員として、公園の巡視を行い、公園利用者に対する適切な助言や指導を行うなど、自然公園の環境保全に貢献している。
団体	京都府立東稜高等学校	京都市伏見区	地域の小学校児童とともに、地域の美化清掃活動を推進し、環境美化に貢献している。
	修二学区を美しくする会	京都市左京区	地域の一斉清掃を中心とした清掃活動や美化啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	東山保勝会	京都市東山区	東山地域の美化活動や植樹活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	勤修地域女性会	京都市山科区	地域の散乱ごみやたばこの吸い殻、空き缶の清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	京都市西京区大原野春日町自治会	京都市西京区	小塩山・淳和天皇御陵道において、不法投棄ごみの回収活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
団体	京都市立中京中学校	京都市中京区	全校をあげたアルミ缶回収活動や植樹活動等を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	田井地区の海と川を美しくする会	舞鶴市	河川の美化清掃活動や啓発活動を積極的に推進し、環境美化に貢献している。
	フィールドソサイエティ	京都市左京区	自然観察会、エコツアーなどの自然環境の学習活動を積極的に推進し、自然環境保全に貢献している。
	京都市立花山中学校	京都市山科区	地域と一体となって菜園活動やピオトープの作成などの環境教育を積極的に推進し、環境美化に貢献している。

#### 4 府の環境保全・創造に関する活動の推進

府では、11年11月に府本庁舎を対象に国際環境規格ISO14001の認証を取得し、府環境基本計画の基本理念・長期的目標に基づく環境方針・環境目的を設定し、毎年、この環境目的を実現するための環境目標を設定し、進行管理・評価・見直しを行っています。

14年度においては、合計107の目標を掲げて取り組んでいます。

表3 - 13 13年度京都府環境マネジメントシステム・環境目的・目標の達成状況（109目標）

環境目的 (環境基本計画 の長期的目標)	環境目標数	主な環境目標と取組例	環境基本計画達成に向けた成果等
環境の世紀を拓く環境先進地・京都の創造	18	京都議定書早期発効に向けた京都からの発信 〔シンポジウム開催、COP6再開会合、COP7年頭にメッセージ送付〕 「第3回世界水フォーラム」で「環境先進地・京都」をアピールする事業を行い、世界に向けて京都から発信 (プレイベントを実施 約650名の参加) 環境トップランナーを支援する表彰、認証事業を実施 〔「環境トップランナー」3事業者等を表彰〕 〔「エコ京都2.1」62事業者等を認定・登録〕	京都議定書発効に向けた気運の高揚、水に関する理解の向上、府内事業者等の先存取組の顕彰・支援等による地球環境保全の長期的な取組の推進
すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全	26	庁内電力使用量、廃棄物量等の削減 〔電力使用量の削減：前年度比8千kwh減少〕 〔廃棄物量：前年度比296千kgの削減〕 京と地球の環境ホームページによる情報発信を拡充し、府民ニーズに沿った情報を随時提供 (提供回数 19回) ISO14001認証取得を支援するため講演会の実施及びアドバイザーを派遣 (派遣日数 12日 講演会開催数 7回)	公共工事やオフィス活動を通じ、府自ら環境への配慮行動を率先実行するとともに、環境施策や環境問題に関する情報を積極的に提供・啓発し、府民・事業者の環境に配慮した主体的行動への参画の促進
自然と人間との共生の確保	10	身近な自然とふれあうための自然観察会の開催 (開催数 6回) 京都府レッドデータブックの作成 「環境にやさしい農業」を推進するため、指針を策定し、研修会の開催等により普及を推進	自然とのふれあいや自然環境への負荷低減を通じた取組により、府民の環境保全意識の高揚の醸成
歴史的、文化的環境の保全	2	民俗文化資料の保存や古典芸能振興を行う団体を支援 〔民族文化資料保存団体 59〕 〔古典芸能支援団体 24〕	伝統文化の保全・継承を図り、地域文化の創造の促進
快適な環境の創造	8	環境に配慮した河川等の水辺空間の整備事業を積極的に推進 (水辺環境整備事業等 7箇所) 自然公園・自然歩道の整備を推進 (自然歩道整備状況 118km)	美しく豊かな自然とのふれあいの場の整備・提供を進めることにより、快適な都市環境の形成の推進
環境負荷の少ない循環型社会の構築	45	府民一人ひとりの不法投棄に対する意識高揚を図るため、不法投棄等撲滅京都府民会議を設置開催 府民・事業者の廃棄物の減量化・リサイクル意識の高揚を図るため啓発活動を実施 〔街頭キャンペーンの実施数 12〕 〔活動交流会の実施数 6〕 事業系ごみの減量化に向け、業界別団体への働きかけを実施 (業種別団体等数 6) 丹後地域における風力発電の事業化を推進 (施設建設、運転開始)	廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルを促進し、ごみ処理量の削減や、新エネルギーの開発の促進による環境負荷低減の取組の推進

表3 - 14 京都府環境マネジメントシステム・14年度環境目的・目標の概要（107目標）

環境目的 （環境基本計画 の長期的目標）	環境目標数	主な環境目標と取組例
環境の世紀を拓く環境先進地・京都の創造	18	<p>京都議定書の早期発効に向けた京都からの発信 府内の温暖化対策を推進するため、地球温暖化対策プランを策定 二酸化炭素吸収源の拡大による温暖化防止に資するため、中国陝西省で植樹を実施 「第3回世界水フォーラム」で「環境先進地・京都」をアピールする事業を行い、世界に向けて京都から発信 環境トップランナーや自主的な環境配慮活動に取り組む事業所等を支援する表彰、認証事業を実施 循環型社会の形成に向けて先進的・独自の事業を行う市町村等を支援 一般公用車を計画的に低公害車に切替 E S C O事業等による病院における省エネルギー化の検討</p>
すべての日常生活・事業活動における地球環境の保全	24	<p>公共工事における環境配慮指針を作成し、工事における環境配慮度をチェック（指針の見直しと運用） 広報紙（府民だより）で年1回、環境問題をテーマとした特集号を発行 京と地球の環境ホームページによる情報発信を拡充し、府民ニーズに沿った情報を随時提供 京滋地球環境カレッジを開講し、地域等で活動する環境学習の推進役を育成 パートナーシップに基づく環境フェスティバルの開催 幅広い府民の環境保全の気運醸成に向け、京都エコクラブの勧誘活動（イベントでの勧誘活動回数）を推進 I S O 14001認証取得を支援するため講演会の実施及び専門家を派遣 温室効果ガス削減の取組を進めるとともに、エコオフィス活動を推進</p>
自然と人間との共生の確保	11	<p>身近な自然とふれあうための自然観察会の開催（6回） 「京都府版レッドデータブック」の普及（ホームページの開設、普及版の作成） 府自然環境保全地域等を指定し、厳正に保全 保安林の管理（保安林面積拡大） 農業や化学肥料の使用量の削減により、自然環境への負荷低減に配慮した「環境にやさしい農業」を推進する。</p>
歴史的、文化的環境の保全	2	<p>民俗文化資料の保全や祇園祭山鉾懸装品の新調を行う団体を支援 古典芸能振興を行う団体を支援</p>
快適な環境の創造	9	<p>集落水源地の森林整備を行い、集落の水環境を向上（治山施設の整備） 豊かな漁場を維持する上で、森林から流れ出る河川の水が重要な役割を果たしていることへの理解を広めるため、漁民の森づくりを漁業者やボランティアにより推進 環境に配慮した河川等の水辺空間の整備事業を積極的に推進 農山村地域や都市近郊林の原風景であり、動植物の生息、生育地として重要なため池の保全整備を推進</p>
環境負荷の少ない循環型社会の構築	43	<p>府民一人ひとりの不法投棄に対する意識高揚を図るため、不法投棄等撲滅京都府民会議を開催 不法投棄の未然防止等のための監視体制の強化（不法投棄等撲滅パトロール隊員の配置） 発生源に対し、ダイオキシン類の基準適合状況を把握し指導するため、排出水・排出ガス検査等を実施 大気、水質、底質、土壌におけるダイオキシンモニタリングを実施 地下水汚染判明時に迅速に対応するためのマニュアルを整備 市町村、保健所の公害苦情処理担当者を対象とした研修会を開催 低周波による影響を検討するため、低周波音の発生状況を把握 環境基準達成状況を把握するため、自動車騒音の常時監視を実施するとともに、騒音低減対策を促進 廃棄物の処理処分状況の実態調査を実施し、循環型社会形成のための計画を策定 京都府庁グリーン調達方針を策定して、府自らが率先して環境物品等の購入に、努めるとともに、その取組結果を公表 生活雑排水対策重点地域の指定を増やし、生活排水対策を推進 府営浄水場における太陽光発電の導入 丹後地域における風力発電事業の推進 等</p>

また、府では、自らが地球にやさしい取組を率先して実行するため、9年度から「地球にやさしい府庁づくり計画」を策定し取組を進めてきましたが、10年に制定された「地球温暖化対策の推進に関

する法律」で、地方公共団体に事務・事業に係る温室効果ガス排出抑制のための計画（実行計画）の策定が義務付けられたことから、「地球にやさしい府庁づくり計画」を改定し、法の要件を満たす新たな計画として13年7月に「地球にやさしい21世紀府庁プラン」を策定し、取組を進めています。

なお、13年度における府の事務・事業に伴う温室効果ガス総排出量は84,316 t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度である11年度対比では1,472 t-CO<sub>2</sub>（1.72%）の減少となっています。これは電気、ジェット燃料の使用量は増加したものの、その他のエネルギーが減少したことによるものです。

【地球にやさしい21世紀府庁プラン】

計画の期間 平成13年度～17年度

基準年度 平成11年度

目標年度 平成17年度

計画の対象となる温室効果ガス

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン（代替フロン）、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄

目 標

（単位：t-CO<sub>2</sub>）

温室効果ガスの種類	基準年度(11年度)	13年度結果	目標年度(17年度)
二酸化炭素	83,469	82,239	全体で5.5%削減
メタン	613	608	
一酸化二窒素	1,626	1,373	
ハイドロフルオロカーボン	80	96	
総排出量	85,788	84,316	

【本庁のエコオフィス活動】

本庁でのエコオフィス活動については、毎年、ISO14001の環境マネジメントの中で取組を進め、その取組結果を取りまとめて公表しています。

なお、13年5月からは府の率先した環境配慮の取組として、ごみの減量化や資源循環の面で有効な手法の一つである「デポジット（預託金返戻）制」を、府本庁舎内「缶飲料」を対象に実施しています。

【グリーン購入活動】

需要面から循環型社会への転換を促進するため、13年11月に「京都府庁グリーン調達方針」を施行し、府庁の全ての機関において府庁自らが事業者・消費者として環境にやさしい物品等の一層の購入に努めています。

なお、同方針施行後の取組結果については、府ホームページ「おこしやす京都」でも公表しています。

表3-15 京都府庁グリーン調達実績  
(13年11月～14年3月)

分 野	品 目	総調達量に占める環境物品等の購入割合(%)
納入印刷物 (1品目)	納入印刷物	82.0
紙 類 (4品目)	コピー用紙	93.5
	印刷用紙・衛生用紙など	93.6
文 具 類 (49品目)	文具	95.0
機 器 類 (8品目)	いす・机・棚・掲示板など	70.3
O A 機 器 (7品目)	コピー機・電子計算機など	97.4
家 電 製 品 (6品目)	冷蔵庫・エコアコン・テレビなど	90.1
照 明 (2品目)	蛍光灯照明器具	92.4
	蛍光管	87.1
制服・作業服 (2品目)	制服・作業服	78.5
作業用手袋 (1品目)	作業手袋	80.8
インテリア・寝袋 (4品目)	カーテン・カーベット・毛布	81.9
自 動 車 (1品目)	自動車	89.1

- 1 印刷用紙及び納入印刷物については、国の判断基準（70%）を上回る古紙配合率100%の用紙を使用することとしました。
- 2 O A 機器のうち、コピー機、プリンタ/ファクシミリ兼用機、ファクシミリについては、購入率が100%でした。
- 3 上記の品目のほか、設備（4品目）については、太陽光発電システムを2カ所に設置、天然ガスコージェネレーションシステムを1カ所に設置しました。公共工事（13品目）については、「調達に努める」としており、13年度は集計の対象にいません。役務（1品目）については、実施について引き続き検討中です。

### 第3節 環境情報の整備・提供

府民、NPO、事業者等と協働して環境保全を行っていくためには、環境に関する情報を共有し、共通の認識を持つことが重要です。

府では、府環境を守り育てる条例に基づき毎年「京都府環境白書」を作成するとともに、府の広報誌「府民だより」、テレビ・ラジオ等の府広報番組や、インターネットなどの各種媒体により様々な環境情報の提供を行っています。8年の府ホームページ「おこしやす京都」の開設時には「京と地球の環境ホームページ」(<http://www.pref.kyoto.jp/intro/21cent/kankyo/>)を設置し、条例や地球温暖化などの地球環境問題の解説、子供たちに学んでもらう実験やクイズのコーナー、京都の自然200選等の紹介を英文情報と併せて行うなど、800ページ以上にわたり豊富な情報を提供しています。また、できる限り最新情報を掲載するよう努めるとともに、記者発表した情報も積極的に掲載しています。この結果、府のホームページの中でもアクセス件数が最も多いページ（府全体でのアクセス件数が月間約55万件、環境のページが約10万件）となっており、年々アクセス数も増加しています。

そのほか「府民だより」では、6月の環境月間に併せて環境問題の特集を掲載するとともに、14年度は「エコ&はじめの地球だいすキッズ」コーナーを設け、子供にもわかりやすい地球にやさしい暮らし方を紹介しています。このほか、京都エコクラブ会員を対象にした「きょうとエコクラブNEWS」の発行や、小学生向けの啓発冊子「環境まなぶっく」、11年度に作成した環境学習ガイド「環境まなびの輪」のCD-ROM化といった媒体の充実、環境月間・地球温暖化防止月間（12月）や環境フェスティバルなど時機をとらえたタイムリーな広報を展開しています。

また、環境施策や環境関連の各種事業を科学的、総合的に推進するためには、環境に係る情報を広く体系的に収集し、分析することが大切です。

府では、大気、水質及び産業廃棄物に関しては、それぞれ電算機を活用した「大気発生源情報管理システム」「水質汚濁総量管理システム」及び「産業廃棄物情報管理システム」の整備・拡充を図っており、各種の発生源や環境質に関するデータの管理及び総合的な解析を行っています。

また、自然環境に関する情報については、計画的に「自然環境保全基礎調査」等各種調査を実施し、地形、地質、植生、野生動植物等の情報の蓄積を行っています。

そのほか高浜原子力発電所に係る監視情報を提供するため、舞鶴・綾部市内の地方振興局、保健所、市役所や府庁、府保健環境研究所等に屋内・屋外表示板を設置するとともにインターネットのホームページ(<http://www.aris.pref.kyoto.jp/>)を12年度から新たに設けました。

